令和３年度第４回瑞穂町商工業振興推進協議会会議録

日時　　令和３年１１月３０日(火) 午後６時３０分から午後８時２５分まで

場所　　瑞穂町役場 ４階 全員協議会室

出席者

【会長】　松本　祐一
【副会長】高水　英夫
【委員】　岡本　日吉、石原　浩一郎、布田　徳雄、中村　博隆、海和　将也
　　江川　淳一
　欠席　　佐藤　雅夫
　傍聴者　なし

配付資料
資料１　瑞穂町産業振興ビジョン素案
資料２　瑞穂町工業振興計画素案

１開会

２議題

（１）瑞穂町産業振興ビジョンについて

松本会長　　「（１）瑞穂町産業振興ビジョンについて」、事務局より説明をお願いします。

事務局　　「瑞穂町産業振興ビジョン＜素案＞」について説明

松本会長　　変更点の多くは記載の表現方法を変えてわかりやすくしたということですが、それ以外にも取り組みの方向性としてＩＴ関係や企業支援およびプロモーションについて強調したようです。ご質問やご意見等があればお願いします。

岡本委員　全体を通して「支援します」と列記されていますが、ここで言う支援とは予算を伴ったものでしょうか。どのような支援なのか具体的に考えられているのですか。

事務局　今の段階では補助金等の予算を伴ったものであるとはっきりとは言えませんが、支援策を検討しているところです。それ以外にも、商工会等と連携しながら行っていく経営相談等の側面的支援も含まれています。

岡本委員　イノベーション等とはいっても、見えているようで見えていない部分がかなりあり、そういったことに対する支援の仕方が具体的にあるのかどうかわかりにくいので、教えていただきたいです。

江川委員　全体的によくまとまっていると感じました。支援については、東京都中小企業振興ビジョンと近いものが出ていると思います。そういう点では、東京都と一体化して進めていくイメージをつくっていくと予算が取りやすいのではないでしょうか。その辺のすり合わせをうまくしていくといいと思います。
５３ページの「５－３　町の魅力を伝える観光・イベントの展開」のところに「さやま花多来里の郷、郷土資料館「けやき館」」が記載されていますが、「けやき館」の隣の社会教育施設「耕心館」は、３、４月頃にはつるし雛で相当の集客力があります。そういうものを追加したほうがいいのではないでしょうか。

事務局　「耕心館」は、つるし飾りをはじめ各種のイベントを開催していますので、多くの観光客が訪れるという点では掲載してもいいのではないかと考えています。

中村委員　同じく５３ページの「取組の方向性」として３点あげられていますが、今の町の観光事業を計画し実施し評価する所管部門を明確にする必要があるのではないでしょうか。観光協会ができて６０年ですが、昔ながらにやっているという状況です。瑞穂町には、「けやき館」等の新しい観光資源が生まれており、そこで行われているイベントに注目していることはとてもいいと思います。しかし、集

客力を増すイベントや事業に対して予算をしっかりと付け、情報化も含め地域に発信することを所管するのはどこですか。いろいろな観光資源が散らばっていますが、うまくコーディネートして、瑞穂町の観光資源として事業化することに着目して推進していくのは誰であるかを、施策の中ではっきりと謳ったほうがいいと思います。観光協会の６０年は内々での発想でしたが、今後瑞穂町にお金を落としてもらい多くの方たちに来てもらうようにするのは、町でしょうか、個々の事業者の自助努力なのでしょうか。表現はとてもいいのですが、最後は人にいってしまいます。やる事を事業として誰が責任を持ってどこまで進めるのかという強い決意を、本計画では明記したほうがいいと思います。そうしない限り今までの６０年がずっと続いていくと思います。

松本会長　どこが主導し、コーディネートしたらいいとお考えですか。

中村委員　町の行政組織の中に所管する人または係を設けることが１つ目の案です。
２つ目に、実行部隊としてどういう人たちに任せるかということでは、指定管理者制度をうまく利用するといいのではないかと思います。「けやき館」も「耕心館」も指定管理者が担当しイベントを企画し実施していますが、ポスターを作りネットを利用し本当によくやっています。そしてやはりそれなりに人が来ています。事業としてやるという決意と夢を持ってやっている人たちに、今バラバラになっている観光という事業の一翼を任せるのがいいのではないでしょうか。観光協会では先が見えません。観光資源を商品として、事業のコアとしてまとめ上げていくことを考えると、ノウハウを持った指定管理者に予算を付けて任せていくことがいいと考えます。

松本会長　このあたりのことは、４ページの「５　事業者・町民・町の役割」とも関わると思いますが、町としては観光についてどのように考えているのか説明をお願いします。

事務局　　町としては、今後１２月、３月に議会が開催されますが、組織の見直しを行い、観光に関わる係を設置する予定です。また、事業者が主役であり、町民が消費者であり、町はコーディネーターであるという方向で進んでいますが、そういったことを基本に考えていきたいと思います。指定管理者も１つの案だと思いますが、地元の私たち町民に何ができるのかが一番大切であり、本計画をしっかりとつくり、その計画に沿って進めていきたいと考えています。

松本会長　　「支援」という言葉で行うということは、町の予算で行うという前提が含まれていますが、町民や事業者も受け身ではなく主役であり担い手であるということが本計画には記載されています。都や国の施策や方向性に沿えば、ある程度財源を確保できる可能性もあります。ただ記載するだけで誰が責任を取るのかわからないということはよろしくありません。どこかが主導していく分野もあり、町がしっかりとグリップしてやっていく分野や事業もあります。具体的に事業化する段階で、どこが責任を持つかということを定めないとうまくいくはずはないため、しっかりと定めて進めていく必要があると思います。

石原委員　　３ページの「４　計画の視点」に「定期的に評価・検証を行います」とあります。前計画でも今回と同様に実施したいことを記載したと思いますが、実際には実行されたものとされなかったものが出てきているはずです。それらが、なぜ実行でき、できなかったのかという検証は、次期計画を立てるまで待って行うのでしょうか。突然生じた新型コロナウィルスの影響で予定していた事業が全部できなくなってしまい、計画はそのままであっても計画通りに進められていないということも考えられます。「定期的に」ということを明確にし、何年ごとに見直すのかを明示した上で計画自体を進めていかないと、同じような計画をまた何年後かにつくることになると思います。デジタルの道具がいくら変化しても人間の考えることはそれほど変わりませんから、同じような内容で言葉を変えて計画をつくることの繰り返しになるのは残念です。ビジョンということでは総花的にいろいろなことが出てくることはいいの

でしょうが、今できる優先順位を付けることが必要です。そして、それらが１年後、２年後どうなったのか、できるのかどうか、きちんとジャッジした上で優先順位を変えていくことも、１０年というスパンで見ていくのであればできると思います。

松本会長　このことは「第５章　計画の推進」のところにも記載されていますが、いつやるのかといった具体的なことはありません。いつ検証し、何年単位で行うのか、誰が行うのか、どのように行うのか等、具体化したほうがいいというご意見です。ビジョンは総花的な部分もあるため、実際にやってみたらどこまでできるのかを評価・検証することについてある程度具体的にしたほうがいいと思いますが、事務局で考えていることはございますか。

事務局　５４ページに記載がある通り、毎年度実施する方向で考えています。基本的に年１回は必ず行う予定です。方法は決まっていませんが、やっただけで終わりでは意味がありませんので、効果的な評価方法も研究し、その方向で進めていきたいと思います。その内容を計画にも具体的に記載したいと考えています。

松本会長　それでは、第５章に具体的に書き込みをしていただくのが解決策につながると思います。

中村委員　瑞穂町の農業はとても広い面積を占有し、なおかつ都市近郊型の安全で新鮮な野菜を供給する基地である機能が歴然と現れています。この産業振興ビジョンでは、農業をどういう方向に持っていきたいのかという方向性が明確に出ているとは思えません。現状や行く末の予測は見えているのですが、どのように再開発していくかという視点で見た時に、切り口となるようなビジョンが表現されてはいないようです。
正確な数字ではありませんが、瑞穂町には現在１１町歩弱くらいの不在地主の休耕地があります。また、農業従事者も専業が減り自家消費型の従事者が増えています。これではやがて農耕地が不動産化され、あちこちに住宅や倉庫が建つようになることが目に見えています。そういったことが予測されうるのに、放っておいてい

いのでしょうか。農業を再構築するために何を切り口としてやっていけばいいのか、明確なものが少ないです。ビジョンを描くにあたっては農業振興も考慮されているとは思いますが、新しい切り口のビジョンは描かれているのでしょうか。

事務局　　農業振興の施策については、令和３年３月に農業振興計画を改訂しました。基本理念を「みらいへつなぐ　みんなで育てる　みずほの農業」とし、１０年、２０年後にも瑞穂の農業をつなごうということで将来像として掲げています。２４の施策を展開し、７つの重点プロジェクト「認定農業者への支援」「農畜産物のブランド化・６次産業化の推進」「農地集積の促進」「新規就農者の受入・支援」「技術承継の仕組みづくりの検討」「町民及び学校教育との交流推進」「地産地消の推進」を定めています。

中村委員　　それらの情報は外部公開され、ネットで検索できますか。

事務局　　ホームページに掲載しています。

松本会長　　それに関連して、計画の位置づけは２ページに記載されていますが、この書き方では「工業振興計画」「瑞穂町商店街振興プラン」「農業振興計画」が「瑞穂町産業振興ビジョン」の下位計画としてぶら下がっているように見えてしまいます。３計画がいつつくられたものかを記載し、計画の関係性をわかりやすく表現できるような図にしたほうがいいと思います。

中村委員　　４０ページに「③スマート農業の推進」という追加した項目がありますが、先ほどの重点７項目の中に含まれているのですか。

事務局　　７つの重点プロジェクトの中には位置付けられていませんが、基本施策の１－③に「③スマート農業の推進」と記載しています。

松本会長　　「農業振興計画」と「瑞穂町産業振興ビジョン」どちらにも記載があるということですね。農業独自の方向性もあり、産業振興という視点からつながる部分もあるため、書き方を工夫したほうがいいと思います。

布田委員　現在「みずほブランド」をつくっている人はある程度年齢がいっています。農業と連携して新たな特産品をつくると記載されていますが、農業従事者も高齢化しています。瑞穂農芸高校があるのですから、これからは若い人たちと産学連携を図り、新たな特産品づくりをしていく必要があり、計画に盛り込まなくてはならないと思います。

松本会長　そのような視点はどこかに記載されていますか。

事務局　ビジョンの中に、瑞穂農芸高校という具体的な記載はありませんが、あらゆる所に、異業種、多分野、産学官金等の交流という言葉が出てきます。

松本会長　５２ページの「①みずほブランドの充実」に「地場産業やその担い手の育成・強化」とあり、「②新たな特産品の開発」という項目も別建てであり、これらがつながっていくということでしょうか。

事務局　そうです。４１ページの「１－３　異業種間等の人材交流の推進」でも記載があります。

松本会長　４１ページで今回追加された「②オープンイノベーションの促進」も製造業に関することのように見えますが、農業分野においても意味のある言葉で、農業にも〇印が付いています。農業にも商業にも適用される内容であると思います。

石原委員　農業従事者が高齢化しており、「みずほブランド」に関しても商業者が高齢化しているということですが、スマート農業を推進する際に「ＡＩ」や「ＩｏＴ」等の横文字に高齢者が対応できるのでしょうか。最初にやるべきことは人材の育成で、そこをメインに考えていかなければなりません。言葉としては先進的でいいと思いますが、実態は伴わず、１年目の見直しですでに無理な案件ということになってしまいかねません。優先的に見ていかなければなりませんし、グリーンイノベーションという言葉等は綺麗に聞こえますが実際に２０３０年までやるのかというと疑わしいです。ビジョンですから夢を描くのはいいですが、夢で終わってしまうよう

では困ります。手を伸ばせば届くようなビジョンのほうが現実的であると思います。

事務局　実際には、農業においても若い人で頑張っている方もおられますが、高齢者には理解できないこともあります。しかし、東京都の農林総合研究センターでも、自動の温度管理や水耕栽培といった研究が進んでいますので、１０年先を見据えての計画ということで、こういった項目も掲げていきたいと考えています。また、産業のデジタル化は１年２年でできるものではありませんので、長期的な目標として掲げたいと思います。

松本会長　これは事業承継の問題も同様で、儲かっていない所を継ぎたいと思う人はあまりいません。人を育成するという側面と、スマート農業等を導入しながら稼げる農業に変えていくという側面の両輪を、ある程度同時に進めないと、人がそこに魅力を感じたりすることはありません。あとは、優先的にどこから手を付けるかという現場レベルの話になると思います。ただ、手の届きそうなビジョンを考えていかないと、最初の見直しから修正をせざるを得ないといった計画になってしまうことは確かだと思います。

中村委員　全ての分野ごとに自分たちの夢を描くことは、ポジティブで素晴らしく賛成です。しかし、ビジョンとして実行レベルまで持っていくためには人の問題やノウハウの問題があります。関わるテーマが横文字を含めずらりと書かれていますが、３９～４１ページに関わることを全部自前で考える必要はないと思います。やりたいと思っているメーカーや企業に依頼してはどうでしょうか。町外の企業や法人に、瑞穂町の農業に望む姿を提案してもらい、第三者も入れて町で審議し、予算を付けて採用するような事業を行ったほうがいいと思います。４０ページを見ていると頭がついていきません。誰がやるのか、いつできるのか、瑞穂町がこんなことをできるのかと疑問に思ってしまいます。こういうことを考える人が商社やメーカーを含めたくさんいるわけですから、そういった所にいろいろなアイディアを出してもらい、採用に際しては予算を付け、土地も供給し、水や道路等の生産環境資源も用意し、必要で

あれば制度の改定も行うといった方法をとったほうがいいのではないでしょうか。

松本会長　そういう意味では、４１ページの「②オープンイノベーションの促進」がまさにそのやり方です。オープンイノベーションとは、町外や異業種の世界との連携をしながら新しいものを生み出していこうという取り組みなので、当然自分たちだけではやらないという方向性を示していると思います。全部自分たちでやるということは非常に難しく、あくまでもビジョンとはそういう方向に行くと町がいい方向に行くのではないかという夢のようなものです。それを１つ１つどのような形で進めていくのかということについては事業レベルの問題であり、このビジョンを基に各部署や関係機関が考えていかなければなりません。

岡本委員　ビジョンとは「夢」であるというイメージの話が飛び交っていますが、町で企画するビジョンとは「夢」ではなく「構想」だと思います。ある程度のシミュレーションもしなければならず、何かの意思がきちんと働いている構想を持ってつくり上げていかなければならないものではないでしょうか。すべてができるかどうかは別として、できる方向に向かっていく構想であり、可能性のない事をビジョンとして謳う必要はありません。何らかの形で構想として打ち出せる可能性のあるものとして捉えているのですが、企画されている方たちはどのようにお考えですか。

松本会長　言葉として「夢」を使いましたが、できるかどうかわからないような「夢想」の意味ではなく、「構想」という意味合いで使われていると思います。

岡本委員　夢といえば、経過がない目的そのものというふうに考えられますが、途中もすべて含めた構想があってビジョンは成り立つのではないかと思います。構想の中では実務を誰が担うのかを考えなければなりません。農業も商業も工業も従事している方々はそれぞれ自分の生活を考えて行動していきますが、それらをベースとし、どうやってうまくつなぎ効果的な結果が出せるかということを示

していくのが構想でありビジョンなのではありませんか。個人や１企業の力だけではどうにもできないようなことが起きてきますが、そのような時に総じて産業や地域を活性化していかなければならないということを、本計画で取りまとめていっていただきたいのです。そういった意思がこのビジョンの中に組み込まれていると嬉しいのですがどうも希薄に感じてしまいます。

松本会長　ご意見と同様な考えで進めていますが、皆さんはどう感じていらっしゃいますか。

岡本委員　やろうと思えばできることはありますが、方法や、誰がやらなければならないのかという人選も考えて進めていっていただきたいと思います。やはり最終的には人が決めてやっていくことが必要です。

松本会長　本計画は産業振興についての計画です。基本的には個別の企業や事業所の努力があり、個別にはできないことや皆でやったほうがうまくいくことを、行政のつくる計画の中に描かれていることが理想であり、そういう形の方向性が本計画の中には書かれているのではないかと思います。これを具体的に実行していく段階になった時に危惧される、全部できるのか、どこまで現実味があるのかといった問題はありますが、そのための検証が必要であるというご指摘を含め、改めて確認していただきたいと思います。産業振興ビジョンについてはこの辺にしたいと思います。

（２）瑞穂町工業振興計画素案について

松本会長　続きまして「（２）瑞穂町工業振興計画素案について」、前回からの変更点の説明を事務局よりお願いします。

事務局　「瑞穂町工業振興計画＜素案＞」について説明

松本会長　前回に比べ、かなり細かくなったと思われますが、ご意見やご質問等があればお願いします。

岡本委員　よく改訂していただいたと思いますが、もう少し検討していただきたいところを何点かお願いします。企業立地の支援という形の企業誘致をするようですが、地域の中小企業の支援策としては、大手企業を呼べるような立地条件を整えていただきたいと思います。２，０００、３，０００坪が必要であるというような規模の企業が瑞穂町に工場を開設してくれれば、近場の産業もある程度の動きが取れます。今まで長年企業誘致を謳っていますが、誘致できるような場所の提供はないという状況が続いていますので、できればそういったことを前提に企業を誘致していただければ地域の産業の活性化に大きなポイントを稼いでいけると思います。
また、人材育成の取り組みについてですが、地域の人材だけではなく、もっと広範囲に人材を直接募集したり呼びかけたりしてはどうでしょうか。
企業誘致も人材確保も、募集をしているという情報を広域に発信し、そのことを本計画で謳っていただきたいです。

事務局　「瑞穂町都市計画マスタープラン」では、流通ゾーンとして圏央道や国道１６号等の主要幹線道路が走っており、武蔵地区では土地の条件と交通環境が整い計画的な都市機能整備を進めることにより企業誘致につながる優良な産業地の創出を図ると記載されています。町には広大な土地はないため、区画整理事業等を行いながら企業が参入できるような産業地形成を進めると謳っています。本計画では、基本方針１の基本施策１－２の「①イノベーションの創出に向けたまちづくりの研究」で、今後は土地等も併せて考えていきたいと考えています。
人材確保については、優秀な人材が町外にもいるのではないかということですか。

岡本委員　そういった意味でもあります。これから地域の工業はまだまだ発展していかないといけません。今歯抜けになりつつある集積地を活性化させるためには、企業だけではなく人材も呼び寄せる必要があります。これは中小企業の弱さかもしれません。何らかの形で地域の産業、特に工業の良さを広域に紹介していき、さらに新規で

創業したい方にはチャレンジできるスペースを安価で提供できる施設を用意し、町外からでも参画してもらえるような場所をつくるといった具体的な取り組みが、計画に盛り込まれているといいと思います。

中村委員　大企業の誘致は、瑞穂町の立地条件や経済条件からは相応しくないと思います。また、青梅ICの地の利を生かした物流倉庫を数多く造ったほうがいいという意見がありますが、これにも反対です。その代わりの案として、先ほど農業についてインキュベーターを町が公募することを提案しましたが、工業においても同様であると思います。今瑞穂町が持っている資源の範囲内で生かせる誘致を考えるべきではないでしょうか。インキュベーターはやがて本格的な事業に取りかかることもあり、周辺に需要を喚起する可能性があります。そういうところに着目し、実現可能性がないことは書かないということが大事だと思います。

松本会長　どちらの意見も、外部の人材を呼び込んでやるということでは同じです。企業立地の話と人材の話は違いますが、外部人材をどのように呼び込みどう生かしていくかということは、おそらく共通の課題であると思います。人材の呼び込みは、雇用という面もあり、インキュベーターのようなキーパーソンを得るということにもつながると思います。

事務局　３５ページに「２－５　起業・創業支援」とありますが、これまではこのような取り組みが手薄でした。今後起業セミナーを開催する予定ですが、それだけでは後に続きませんので、金融機関・町・商工会や関係機関が連携し、起業の支援体制を構築していくことが記載されています。また、インキュベーション施設のことであると思われますが、２０ページの２つ目の〇印に「起業、創業を目指す人に対して場所や建屋の貸し出し、インキュベーションオフィスなどのような支援を求める声も挙がっていました。」とありますが、これはイノベーション創出へのまちづくりに含まれています。インキュベーション施設の誘致にも取り組んでいきたいと思います。

石原委員　　３５ページに、起業・創業者向けセミナーを開催すると記載されていますが、青梅商工会議所ではすでに行っています。実際にそこにはどれだけの人が来て起業しているのかを確認したのですか。

事務局　　羽村市でも開催しているようですが、あまり軌道に乗っていないことは承知しています。ただ、施策として、協議会の皆さんの知恵をお借りしながら実質的な起業支援を展開していきたいという思いでいます。

石原委員　　１０年後を見据えた場合はそれでいいのかもしれませんが、今の実態としては羽村でも青梅でもそういった取り組みをしても形として結果は出てきていません。もう少し手の届くところで進めていったほうが現実的ではないでしょうか。たとえ東京商工会議所が開催したとしてもどれほどの人が来るでしょうか。本当に起業したい人は、行政を含め公共団体がやるようなセミナー等には行かず、同じ志を持った仲間の集まりに飛び込み、実態を聞いてやっていくと思います。セミナーは中小企業診断士や経営者等に依頼し理論上のことを講演してもらうと思われますが、実態とかけ離れてしまえば何の意味もありません。開催した経験のある近隣で、コロナ禍にどう落とし込んだのかを調査した上で行ったほうがいいと思います。中には成功した例もあるでしょうから、その理由を探ってみなければなりません。成功事例をそのまま瑞穂町に取り入れることは難しくても、２歩３歩手前ならできそうであれば、そこからやっていくという形で具体的に持っていかないと、夢の話になってしまいます。計画に挙がっている取り組みは、近隣で確認できるものは確認した上で織り込んでいけばいいと思います。

中村委員　　３０ページにある①と②に記載されていることは、事業に携わるエンジニアや経営者が毎日考えていることです。それを、行政のオペレーションあるいはアソシエーターとしての役割からやっていきたい項目として書かれているということはどうなのかと疑問に思います。ここまで行政が考えるべきなのでしょうか。ここまで考えてプロデュースする能力が、行政にあるのでしょうか。行政の範囲でやれることはありますが、コアの部分に近づいていくと介入

することは難しくなります。他メーカーから提携や共同でやる話を持ち込まれることはたくさんありますが、行政の立場で実施することとしては、本計画に記載しなくてもいいのではないかと思われる部分があります。他者のアイディアに乗ることに不快な思いをするメーカーがあるかもしれません。本当に望まれていることなのでしょうか。やらなくてもいいことはやらず、できそうもないことは言うべきではありません。３８ページでは行政はプロモーションの役割を謳っているのでその点はいいと思いますが、行政に人材はいるのでしょうか。

松本会長　３０ページの「②新製品・新技術の開発支援」の「開発」はまさにメーカーが本業の中でやっていることですが、それに対する「支援」とありますので、その支援の内容とターゲットが問題です。大手メーカーは必要ないでしょうが、小さな事業所や個人レベルで起業する人に対してはこのような分野の支援も必要となってくるかもしれません。それを行政がやるのかどうかは別の問題ですが、レイヤーの違うものが混ざっていると思いますがいかがですか。

事務局　町としてはまず「イノベーションの創出を促進する」という旗を揚げ、まちづくりにおける土地に関することは町の役割であると考えています。３０ページの②については、新製品を開発するような企業をできる限り支援していくといった解釈でいいと思います。

松本会長　具体的な支援策や事業については、対象や内容を明確にしたりすることを「実施」という言葉に含めるわけですね。

事務局　そうです。

松本会長　やみくもにやったのではうまくいくはずはありませんし、メーカーからは迷惑に思われるかもしれません。それは事業レベルや実施レベルで考えていかなければなりません。

岡本委員　大手メーカーの考え方のベースは中小企業とは違うと思います。大手は、研究開発から商品を市場に出すところまで自力でやる力が十分にあるのでしょうが、中小零細企業が地域で少しでも力を

付けて伸びていくためには、全部ではなくとも支援があることは助かるところだと思います。展示会等への出展費用の補助が、第一歩を踏み出す手助けになったりします。

松本会長　創業支援についてのセミナーの話がありましたが、昔に比べると創業セミナーを各市で開催するようになりました。そのため、客の取り合いが起きています。商工会議所等でやっているものもあれば、町や市、さらには金融機関がやっているものもあります。場合によっては、瑞穂町が独自にやる必要はないかもしれません。瑞穂町の人が青梅市や日野市、羽村市のセミナーに行っている可能性もありますので、広域連携で、大きな網で創業者を捉えないと逃げられてしまいます。西多摩地区とか青梅線として考えるといった工夫は必要であると思います。

石原委員　１３ページのアンケート結果を見ると、経営上の課題の１位は「従業員の高齢化」で２位は「人材確保」です。新技術の開発等をしいて当てはめると「企画・開発力の低下・不足」で１０％ほどしかありません。人をどう育てていくのかが一番の課題となってくると思います。去年、商工会主導で動画を作成しYouTubeにアップしましたが、視聴者数は頑張っても数千です。展示会は今はリアルとオンラインでやっていますが、その時の参加者はオンラインだけで、訪問者は１人もいませんでした。訪問してもらうためには、よほど魅力的な物を出さなければなりませんが、出せないのです。町として考えなければならないのは、高齢化や人材不足をどのように解消していくかということです。マイスター制度が復活したことを喜んでいますが、高齢化しているということは熟練度も上がっているわけですので、そういった企業や人をPRしていただきたいです。瑞穂町にはこういう企業があり、こういう人がいますという１つの証がマイスターだと思います。
そこで、マイスターの決め方ですが、福生市には工業高校があり、瑞穂町の製造業者に生徒を１、２週間みてもらえないかと頼まれ受け入れている企業もありますので、代わりにそこの教師に瑞穂町のマイスターを決めるジャッジメントをお願いしてもいいので

はないでしょうか。さらに八王子市の東京工業高等専門学校まで行ってもいいと思いますが、いずれにしても第三者でないと平等には決められません。そのように決められたマイスターが出てきてPRすることで、裏付けのある企業を見てもらいアピールするわけです。ただ賞をもらったというだけではなく、賞をもらったことによるインセンティブはこういうことであるということも主張しやすくなります。
そのように瑞穂町の製造業の魅力を引き出した上で外から人を集めてくるのがいいのではないでしょうか。今求人を出してもなかなか人は来ません。さらにそれを１つ１つの企業でやるのは大変ですから、町が関わるのであればマイスター制度を設けるなどして、瑞穂町の製造業や製造従事者にもっとスポットを当てていくことが必要だと思います。マイスター制度を設けて順位付けを行っても、たいしたことはないと言われてしまうかもしれませんが、やったことがないのでわかりません。やってみてどうだったかを見ることが検証です。そのように具体的に落としていったほうがビジョンとしても面白いと思います。

松本会長　並んで記載されている施策はそれぞれが独立しているわけではなく全部つながっているわけです。魅力的な商品を作ったり技術を高めたりしていくことと、人が集まってくることはつながっているでしょうし、そのためにはPRも必要になってくるということで、どれも同時に進めていかなければならず偏ってはうまくいきません。それぞれが大事ですが、どれから取り組んだらいいかという優先度はあります。マイスター制度をコアにしてやると決めていけば、それを軸に考えていき、IHIに売り込む等の企画を進めていくことは現実的であり、それぞれの施策がつながっていく取り組みになると思います。

中村委員　人材確保の問題はどの分野でも共通してありますが、重要なことは、瑞穂町の現在の人口が３．３万人で、雇用所得の３割が町から外に行ってしまっているということです。統計では２０４０年には２．８万人となってしまうようです。町の振興財政については共

通して語らなければいけないテーマですが、特に工業については瑞穂町に住んでもらうということが重要になるはずです。住環境が魅力的であり、それ以外の生活環境にも魅力があるということに着目し、人の雇用も考えなければなりません。瑞穂町の良質な空き家住宅は２０４０年にはどのくらいに増えるのでしょうか。そういった住宅を雇用した方に提供し瑞穂町に定住してもらったり、共同のオフィスワークの場として提供したりするといった政策を打ち出したらいいと思います。雇用を促進しても所得税が町の外へ出ていってしまっては町の財政には貢献しません。視点を変えて、定住してもらう呼び水として住まいを提供するという方向性をビジョンの中で謳っておいたほうがいいのではないでしょうか。埼玉県毛呂山町が一時期すごい勢いで住宅開発をしたのですが、今は空き家がどんどん増えてしまい、それを解決するために若い人を入れてプロジェクトを起こしたそうです。結果はわかりませんが、そのような先行事例もあるので、そういったことにも視点を置き、雇用問題を考えてはどうでしょうか。

松本会長　定住政策を産業振興にどこまで織り込むかということですが、どちらかというと長期総合計画とのつながりになっていくのではないかと思います。

海和委員　産業振興ビジョンも工業振興計画も、前回の意見を取り入れて、現在の状況も考えてできていると思います。人材育成・人材確保が共通の課題であると読み取れます。農業は、新規就農者として２０代の方が何十人も瑞穂町に来てくださいました。そうしたことから、ITやデジタル化の記載があってもいいのではないでしょうか。ビジョンについては、夢ばかり追っていてもだめなので構想という考え方でいいと思います。若手が見ても魅力のある計画になって欲しいです。観光に関しては主幹ができる係ができるということなので、瑞穂町のプロモーションも兼ねて記載されているのでよかったと思います。また、毎年、進捗状況や成果等を評価・検証すると記載されていますので、期待する１つです。創業や販路開拓および事業承継に関するセミナーは商工会でも随時開催しています

が、全員が満足するようにはできません。その中で１つでもヒントを与えることができればいいと思っています。小規模事業者がそれに沿って１人でも２人でもいていただければ個別にサポートできたらいいと思い続けています。瑞穂町に住んでいてよかった、瑞穂町にはこんな計画があるのかと思えるような計画ができ上ることはいいことであると思います。商工会としても町と一緒にやっていきたいと考えています。

高水副会長　工業・商業・観光において、どれだけ町が力を入れてくれているのか、どの方向に持っていきたいのかが見えてこないため、皆さんも悩み、こうしようという気持ちにならないのではないかと思います。大雑把でもいいので町で考えている方向性を見せないと、ついていくのも大変ですし、絵に描いた餅で終わってしまっても仕方ありません。事業所としては、高齢化問題や後継者問題という一番の悩み事があるので、町としてはどのような考えがあるのか教えていただければ、商工会としても力を入れやすいと思います。

松本会長　本計画は商工会との連携の中で行われていく計画であると思いますので、我々の意思として、皆さんの腹に落ちたものになることが大事です。こういった議論を通じてさらに深めていけたらいいと思います。多くのご意見をいただきありがとうございました。工業振興計画についてもここまでといたします。

（３）その他

事務局

（次回の日程等の説明）

３閉会

松本会長　これをもちまして、第４回瑞穂町商工業振興推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。